

令和4年度（2022年度）行政評価シート【個表】

令和 4 年 5 月 27 日

評価対象事業		評価者	地域共生課担当課長 矢作 拓	
共生-16	エシカル消費推進事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	地域共生課
重点事業		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	消費者対策	施策の方針	安心な消費生活の実現

1 事業の目的

対象	市民等
意図	消費している商品やサービスの生産背景を知ることにより、人と社会、地球環境、地域のことを考慮した消費行動の理解促進に向け、エシカル消費の普及啓発を図るため。
効果	エシカル消費の理解を深めることにより、人と社会、地球環境、地域のことを考慮した消費行動ができる。

2 令和3年度(2021年度)に実施した事業の概要

・鎌倉市エシカル消費推進アドバイザーから、エシカル消費に係る取組等について助言を受けた。
--

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和3年度		令和4年度	達成度
				指標(実績値/目標値)	事業費(決算/当初)(千円)	指標(目標値) 予算額(千円)	
01	エシカル消費啓発事業	講演会	開催数(回)	0 / 0	100 / 1289	1 / 230	—
02				/			
03				/			
04				/			
05				/			
06				/			
07				/			
08				/			
09				/			
10				/			
		財源 内訳	国県支出金	50 / 644		115	
			地方債	/			
			その他特定財源	/			
			一般財源	50 / 645		115	
			事業費の合計(千円)	100 / 1,289		230	
		人件費(千円)		6,828		8,455	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	0.5	0.9	1.1			
会計年度任用職員	0.0	0.0	0.0			

## 5 評価結果

### (1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	エシカル消費啓発事業	新型コロナウイルス感染症の影響により、講演会の開催目標を設定できず、開催にも至らなかった。	エシカル消費についての研修会や展示等を通じて情報を提供し環境に配慮したエシカル行動に寄与した。	より多くの市民にエシカル消費について認知度を高めるための周知・啓発を図る。
02				
03				
04				
05				
06				
07				
08				
09				
10				

### (2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか		1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか		3 外部化ができる事業はない
	関連・類似する事業の統合はできないか		3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか		4 市民ニーズを計ることはなじまない
	民間によるサービスで代替できる事業はないか		2 民間によるサービスで代替できる事業はあるが、民間による提供が不足している
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか		2 目的達成のために手段(最小事業)を改善する余地がある
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入	△-3 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施	△-1 今後、市民等との協働による事業を検討すべき事業がある
			協働実施済の場合のパートナー

### (3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 改善・変更	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休止・廃止
市民に対してよりエシカル消費を普及させるためには、効率性や妥当性の観点から事業の進め方について、さらなる検討を行い、啓発の手法や内容を見直していく必要がある。					

**【参考】**

**◎事業実施に係る主な指標**

指標(単位)	持続可能な消費行動を意識している市民の割合						単位	%
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
市民への効果を把握するため。	目標値	64.6	66.7	68.8	70.9	73.0	75.0	
	実績値	-	71.3					
	達成率	-	106.9%					

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

**◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)**

比較事項							
団体名	鎌倉市						
他市実績							

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	事業対象となるエンカル消費は、行政分野において比較的新しい視点であり、自治体ごとに取組みの有無にばらつきがあるなど、理解度も大きく異なっている状況であることから、数値を用いた単純比較をすることは難しいと考える。
--------------------------	---